

日米交流 ひな祭り in TOHOKU TOWN 2024



東北防衛局では、日米の相互理解を深める取組みとして、在日米軍関係者と地域の住民の方々がスポーツ、文化などを通じて交流を行う「日米交流事業」を開催しています。

令和6年3月2日(土)、米空軍三沢基地やその周辺に所在する日米の小学生とその保護者を対象とした、日米交流ひな祭り in TOHOKU Town 2024 を青森県上北郡東北町の小川原湖交流センター「宝湖館」で開催しました。

日米の親子約50名が集まり、交流ゲームやボトルランプ作り、琴の演奏や着物の試着、餅つき体験で交流を深めました。

交流に先立ち、中野裕文東北防衛局長が「東北町に住む皆さんとアメリカの人たちがお互いのことをもっとよく知り、友好的関係をさらに深めてもらいたいと思い、このひな祭りを計画しました。」と挨拶し、続いて、来賓を代表して長久保耕治東北町長が「日米の子供達が楽しく、仲良く、元気いっぱい、日本の伝統と文化に触れながら遊びを通して交流の輪が広がることを期待しています。」と挨拶しました。

参加者は、名前や好きなものなどを記入した自己紹介カードを3枚作成し、他の参加者とカードを交換して、全て交換できた人は景品がもらえる「自己紹介ゲーム」のほか、和菓子の消しゴムを素早く取り合う「キーワードゲーム」やスプーンに乗せた卵を落とさないように運ぶ「エッグスプーンレース」で交流を楽しみました。

ボトルランプ作りでは、親子が協力して、木製の卵型のイースターエッグに、思い思いの顔を描き、和紙などで装飾したお内裏様とお雛様を作成し、明かりを点すことが出来るボトルが完成しました。

琴の生演奏では、地元の琴教室に通う日本の生徒が「ひなまつり」や「きらきらぼし」など10曲を披露し、知っている曲が流れると、子供達は演奏に合わせて一緒に歌う場面もあり、演奏終了後、演奏体験として、実際に琴に触れました。

着物の試着や餅つき体験も楽しんだ参加者からは「とても楽しかった。」「子供同士が触れ合う機会が得られて良かった。」などの感想が寄せられました。

東北防衛局は、在日米軍と地域住民の方々の相互理解の一助となるよう、今後も様々な形で活動してまいります。



【自己紹介ゲーム】



【エッグスプーンレース】



【ボトルランプ作り】



【ボトルランプ作り】



【琴の演奏】



【着物の試着】



【ひな壇飾り】



【餅つき体験】



【集合写真】



【ボトルランプ】